

観察会報告
三保ビーチコーミング
高山達子

1月27日清水区三保の真崎海岸で、小学生3名高校生1名を含む総勢15名で、観察会を行いました。

当日は雲一つない晴天で、陽の当たるところはポカポカとして絶好のビーチコーミング日和でした。海岸では、少年団が手旗信号をしていたりサーフィンする人がいたり、にぎやかです。早速砂浜に降りて、のんびりとそれぞれ、気になるものを探します。

真崎灯台の近くで、カメガイの仲間がたくさん拾えました。何年か前にカメガイの事を聞いてから拾ってみたいと思っていたのですが、今まで見つけることが出来ずにいました。カメガイの仲間は透明な上に、数ミリ～1cmほどの大きさで砂の中から見つけ出すのが困難なのです。

今回はじめて、ウキビシガイを見つけてことができ、すると不思議な事に、マルカメガイに、ヒラカメガイと次から次へと見つけることが出来ました。よほど、多くのカメガイの仲間が打ち上げられていたという事でしょうか。

カメガイの仲間ではないのですが、同じ浮游性の貝のウチケレウキガイも拾いました。透明なアンモナイトの子供のようなとても美しくはかない貝です。

途中、柴先生から遠くに見える山の事や、海岸の砂の関係の話をお聞きしました。三保では堤防を作ったことにより、波のくる方向が変わって、外海側は海岸が削られ、内海である真崎海岸は砂浜が広がったそうです。今回歩いたところは十数年前には、干潮時でも海の中だったことになり、長い年月での変化ではなく、ずっと短いスパンでも、変化が起こることに、驚きました。

2時間ほど、海岸を探索し、最後にみんなで何を拾ったかのお披露目をしました。一番多いのは貝ですが、その他にも、岩石、漂着物、骨などが集められました。

カメガイに関しては、ウキビシガイ、ウキツツガイ、シロカメガイ、マルカメガイ、ヒラカメガイ、マダラヒラカメガイ、クリイロカメガイ、キヨコ



海岸で見つけたものをお披露目会



打ち上げられていたイワハダカ

カメガイ、マサコカメガイ、ササノツユ、マルセササノツユの11種を見つけたそうです。他の貝類としては、二枚貝、巻貝ともに20種くらいずつ拾うことができました。ヒトデ類はイトマキヒトデ・トゲモミジガイ（カイと付いていますが、ヒトデの仲間です）の2種、骨はサメの脊椎と思われるもの等、多くの目があるとこんなにも多様なものが集まるのかと感心しました。その他に、小さな深海魚と思われる魚も打ち上げられていました。体側に発光器らしきものがみられます。後日、久保田正先生に写真をみていただいたところ、イワハダカと確認していただきました。（2011年の自然史しずおか第33号にイワハダカの事が書かれています。）

あっという間の楽しい2時間半で、みなさん名残惜しそうに、帰路につきました。